

# 十勝組だより

## 第33・34合併号

発行所 新得町立教寺院内  
十勝組々長事務所  
発行人 千葉 照映  
題字 揮毫 住職 妙覚寺 脇谷 暁暢氏

### 被災地へ

### 行ってきました

報徳寺門徒

高田 徹子

福島県の「被災地の声を聞くツアー」に初参加して、原発の帰還困難区域の人たちの声を聞くことが出来た。

二〇一二年二月十三日に開設した「福島復興支援宗務事務所」を訪れ、十勝産の野菜や肉の食材と調理具などを持参して、鮭鍋と豚丼を手作りして振る舞い被災者の人と交流しました。

同事務所は、原発の影響を受けたため寺院や門信徒などからの要請や相談の対応を行う拠点として開設。持参したジャガイモやダイコンなどの食材を刻み、大鍋で煮たアツアツの鮭鍋は、約三十人の参加者に特に人気でした。

海の近くで請戸に住んでいた井上トシ子さん(六十八歳)は、今も仮設住宅で暮らしていて「二年前に夫

がなくなりました。昨年から復興住宅を申し込んでいますがなかなか当らないね」と悔しさを話していました。更に、家が、車が、流されてい

ざまな生の声をお聞きしました。  
・福島へ来て見て欲しい・一声かけて欲しい・聞いて欲しい・帰る所がない・強い体力と強い精神力が必要・帰還困難区域の格差や保障の違いが問題になっている・課題が多く簡単ではない・普通の生活を取り戻したい・目に見えない形もな

る中に沢山の人も流されていて「助けて」との声が今も耳に残っており、当時の悲惨な状況が夢に出て忘れられないと話してくれました。



難者数約十二

福島県の避

でしようか?

安心して被災

地で生活する

こと出来るの

こと出来るの

こと出来るの

こと出来るの

こと出来るの

### 被災地の声を聞くツアー2015参加者名簿

立教寺：千葉 照映 (十勝組組長)  
松浦 和子・藤田とし子  
報徳寺：佐藤 誠・高田 徹子  
光心寺：桃井 信之  
大正寺：高田 芳行・田村 華榮・小澤美穂子  
光明寺：白井 郁江・鈴木 和恵・望月 礼子  
益田 牧子・大野はるみ・阿部 光江  
帯広別院：鎌田 悦己

### 日程2泊3日

12月15日 千歳空港より仙台空港  
福島復興支援宗務事務所様訪問 飯坂温泉泊  
16日 レンタカー移動 光西寺様・光善寺様訪問  
いわき温泉泊  
17日 レンタカー移動 勝縁寺様訪問 仙台空港  
千歳空港帰宅





万人、家があるのに帰れない悔しさや空しさ、苦しみ、ふるる里を追われた人たちの苦悩や悲しみを思うと、私たちは

ただただ原発反対を叫ぶのではなく、今の電気使い放題の生活を反省し、環境問題も含めて「自分の出来ること」を実践しなければと痛感しました。

なぜなら、自分たちも何時被災者になるか知れないからです。

## 被災地の声を聞く ツアーに参加して

木野光明寺若坊守

白井 郁江

十二月十五日から十七日迄の三日間、福島県福島市、いわき市、南相馬市にある四ヶ寺を訪問致しました。

福島復興支援宗務事務所の常例法座日(十二月十五日)には食事を企画、十勝の食材を持参し調理して、被災地のご門徒の方と一緒に食事を頂きながら、住職さま、坊守さま、専従員さまからも、事故が起きた時

の話や現在の暮らしに ついてなき、 沢山のお話を聞かせて いただきました。

避難して 五年目になり、仮設住宅の老朽化に加え、自宅の整理も

なくてはならない現状に、高齢の身としてはどうする事も出来ない事。また、よそに新居を構え、若い人が町から離れてしまう事。除染が追い着かない事。福島原発の事故による影響と現状、そして今後の課題等です。

車窓から見る風景は除染作業、汚染物質が入っている黒い袋の山々、余儀なく避難されて、朽ちていく家々と廃墟化している住宅街でした。

「こんなはずじゃなかったのに」と、悔しい思いや悲しい思い、やりきれない思いをされている事を実際に聞き、自分の目で確かめ、肌で感じた事により、今一度、私達ができる事を考えていかなければと、そして、多くの人に福島の現状、苦しみを伝えていかなければならないと思いつながら、福島を後にしました。



## 総代会部 活動報告

総代会部部長 桃井 信之

### 十勝組総代会部 総会 研修会

総代会部では、平成二十七年年度の

総会(第二十八回)を三月二十五日、帯広別院を会場として開催いたしました。従来、総会・研修会は、新年度の四月以降に行っていました。四月に入ると農繁期となり参加者が激減するため、今回より三月下旬の開催といたしました。総会では、この件を含めた事業報告・事業計画、収支決算・予算等の審議があり、全て承認されました。

研修会では、清水町御影・真浄寺ご住職・永田弘彰師を講師に迎え、「浄土真宗の教章」について」という講題でお話しいただきました。永田師は、新たに制定された「浄土



をわかりやすく解説されるとともに、師が高生時代、大学受験を目前に控えたまさにその時期、お父様が壮絶

な闘病生活の末逝去された、という悲痛なご経験をを通して、「絶望の暗闇にあるものが、苦悩を乗り越えて、この世を力強く生きていく身に転じられていくのが真実の宗教、お念仏のみ教えである」と、感動的にお取り次ぎいただきました。

### Cブロック 門徒総代研修会

平成二十七年年度の「北海道教区Cブロック総代研修会」は、九月二十八・二十九の両日、北見東組の主管にて、網走市「網走湖荘」を会場に開催されました。黒田正宣教務所長、佐藤弘教区総代会々長、松田正志教区総代会副会長をはじめ、道東各地より各寺の総代・住職方が参集し、

参加者には総勢一〇〇名を数えました。講師には、福岡県より、浄土真宗本願寺派「ご縁づくり」活動推進会議委員長で、福岡市海徳寺ご住職・松木博宣師にご出向いただき、「子ども・若者ご縁づくり」総代として何ができるか」と題して二日間にわたってお話いただきました。

宗派では、キッズサンガのさらなる展開として、若者層(中学生・高校生・学生・社会人など)への働きかけを強めていくため、一昨年四月、「子ども・若者ご縁づくり推進室」を開設しました。全寺院を挙げて、生まれたての赤ちゃんから四十歳未



満の方々に「手を合わせ、お念仏申すら」になってもらうことを目標に、既に少しくもご縁のある若者層へはご

縁をつなぎ続けていくこと、また全くご縁のない若者層に対しても仏縁に出遇うご縁づくりをはじめていこう、との新たな取り組みです。

松本師は、新たな運動の趣旨を明

## 仏教婦人会

### 婦人会部の一年をふり返り

婦人会部部長 御幸 誓見

婦人会部では、五月二十二日に平成二十七年年度の総会を、帯広別院を会場として開催し、事業報告・計画、会計決算・予算等の審議が行われ、承認されました。

六月二十九日には、「第六十回十勝組仏教婦人会大会」並びに「第二十五回十勝組若婦人研修会」が帯広別院において開催され、一三四名(二六九カ寺)がご参加下さいました。

快に説明された上、ご自身の活動経験をともに、それぞれの寺院総代が、住職と協力しながら、どのような取り組みができるのか、その無限にある可能性を明るく口調でお話しただき、参加者一同感銘を受けました。今大会の主管は北見東組でしたが、組内スタッフの皆さまによって周到に準備されてきたことがよく感じられる充実した大会であったと思います。組長はじめ、北見東組総代会関係者にあらためて深く感謝申し上げます。平成二十八年度は、北見西組が主管となり開催されることになっていきます。

ご講師には、後志組ニセコ町より照堂寺御任職、佐々木墨師をお迎えし、「安心」と題しまして、親鸞聖人のみ教えを平



タイル演奏や「ののさま」等の歌を通してながら、非常に分かりやすく、時にはユーモアを交えながら心温まるご講話を頂きました。

平成二十八年一月三十一日・二月一日には、「一夜研修会が十勝川温泉・観月苑において開催され、総勢一四



六名(二六三カ寺)がご参加下さいました。ご講師には、上川南組より専証寺住職・打本厚史師をお迎えし、「人

身受け難し」を講題に、二日間に渡りお話し頂きました。当たり前のことを受けとめられない我執を抱えるこの私の姿も、仏法によって教えて頂ける世界があることや、お念仏をよるごぶ人達の声が今日の私に伝わっていき、今の私がお念仏申す身になっていくことを、先生のお話を通し、改めて気が付かせて頂くこととなりました。

婦人部の行事は、以上の総会、十勝大会(若婦研含む)、一夜研修会となりますが、これらの行事前には、僧侶部員だけでなく、田村十勝組仏教会長をはじめとした連絡協議会の役員の皆様とのお話や準備を通して、



運営させて頂いております。新年度は役員改選を迎え、新体制となりますが、十勝組仏婦がさらに充実し、僧侶部員、会員の皆さまと共に浄土真宗のお法りを深く味わえるように頑張つてまいりますので、ご協力よろしくお願ひ致します。

## 仏教壮年会部 年間活動報告

仏教壮年会部部長 佐藤 誠

壮年会部では、平成二十七年年度の総会・研修会(第二十八回)を四月八日、西別院を会場として開催いたしました。総会では、二十六年年度の事業報告ならびに決算と、二十七年年度の事業計画ならびに予算案を審議頂きすべて承認されました。

研修会のご講師には、鹿追町玄誓寺ご住職・上本周司師をお招きし「変わるもの、変わらないもの」と講題を頂き、ご門徒へのご寄付依頼に際し「取られた」の言葉に対し、「お寺のことばさせてもらうのですよ。」等とユーモアをお話を開



かせていただきました。

六月七日には、大樹町光教寺仏教壮年会が当番となり、歴舟川パークゴルフ場に於いて六十八名参加のもと、組連盟パークゴルフ大会が開催され、プレー終了後は焼肉バーベキューにてなごやかに交流を深めました。

平成二十八年二月十一日〜十二日には総代会との合同一泊研修会が十勝川温泉ホテル観月苑に於いて十九ヶ寺百十一名の参加者を集め開催されました。ご講師は釧路組弘宣寺ご住職・八村弘英師をお迎えし、講題「老病死を超える道」として、ビハール活動二十五年の歩みをお話しくださいました。

ビハール活動の現状と願いについて  
一、広く社会の苦悩にかかわるビハール  
二、自発的にかかわるビハール  
三、相手の心に聴くビハール  
四、医療・福祉と共にあるビハール  
五、深いいのちを見つめるビハール  
八村先生のお話の中で、「私の実践運動は傾聴でありませう」という事をお話してくださいました。その中で、ご門徒の石井真雄様(享年七十四歳)との深い心の結びつきを感じるお手紙のやりとりを紹介して頂き、ビハールをもう一度深く考える研修会ともなりました。

以上にて仏教壮年会の年間活動報告とさせていただきます。

## 寺族婦人会

### 寺族婦人会この一年

寺族婦人会会長 頼田 豊子

四月三十日に春の研修会が帯広別院にて十八名の参加のもと開催されました。午前の部には、講師として真浄寺ご住職・永田弘彰師に出講いただきました。高校卒業時期にお父さんを亡くされ傷心の中、住職継職を決心されての学生生活、そして寺院に戻られてすぐに住職継職と大変な苦労があったその経験からお話を頂きました。

午後の部

は、「食育」について。  
村田歩・ナホご夫妻にお話を頂きました。  
五月十一日は北海道教区寺族婦人会・物故者追悼法要、総会・研修会が札幌別院にて開催され、十勝組からは十

一名の参加がありました。十勝組の対象者は、宝照寺・泉昌子様、真光寺・桃井美紀子様の二名でした。

十勝前坊守様にお焼香に出て頂きました。その後、総会と研修会と続きしました。研修会では、ご講師の稲田浄真師より各地で舞台公演された「九条武子様の生涯」の公演実現までの苦労話や思いを聞かせて頂きました。

今回、全道寺族婦人会の総会に合わせて親睦旅行を計画し、小樽まで足を伸ばして小樽別院を参拝したのちに、NHK朝の連続テレビ小説「マッサン」の舞台となった、余市のニッカウイスキー工場を見学してきました。帰路のバスの中でも大いに会話も弾み、楽しくたのめになる研修親睦旅行となりました。

六月二十七日には夏の研修会として帯広別院の仏教講演会に六名で参加しました。内容は小泉信



了師によるギターを使ったの法話で普段とは違った感じで興味深く楽しく聴講させていただきました。

十月二十八日には、秋の研修会として帯広別院を会場に十八名が参加して開催されました。午前のご講師には宝照寺住職・泉恒樹師を迎え、お姉さんとお母さんの看病の中での苦労話など体験談をお話頂きました。

午後からの講師には南豪寺菩提院・竹中淳記師を迎え「健康体操(喜ば



しい人生を送るには」と題してお話を頂き、その中でヨガを体験しました。あまりの気持ちの良さに寝息も聞こえてくることも有り、心も体も大変リフレッシュできた一日でした。

十勝組寺族婦人会に於いて、一年間で中札内村真光寺坊守・桃井美紀子様と幕別町顕勝寺坊守・芳滝美和子様のまだこれから活躍頂くお年の仲間を亡くしました。また、先輩の茅室町願恵寺前坊守・藤原藤子様が亡くなられました。お寺の護持発展とお念仏繁盛に寄与されたその姿を忘れることなく、私たちもますます開法に努めさせて頂きたいと思えます。

## 研修部 活動報告

研修部部長 協谷 曉融

研修部では例年通り、御同朋の社会をめざす運動(実践運動)推進のために、十勝組僧侶研修会を開催しました。本年度は一日にて、十月二一日午後に帯広別院を会場に参加者約一七名をもって開催しました。

講師には本山少年連盟役員、大阪ビハハラ会長であり、有志の震災支援を続ける会代表でもある石崎博敏(ひろのぶ)氏を大阪教区から迎え「基幹運動から御同朋の社会をめざす運動へ」三年間をふりかえる、運

動の課題、連研、ビハハラ、組織強化」をテーマに、これまでの基幹運動から実践運動についての変遷、それまでの運動の課題と成果を引き継ぐものが現運動であることをもとに、より詳細なこれまでのふり返りと具体的な内容を頂きました。

さらに現在、連続してきた「十勝組テレホン法話」を引き続き運用中です。テレホン法話の法話順は、別途文書にてご依頼をさせて頂いております。昨年度からは、より直近一ヶ月前に担当者に直接ハガキにてご案内をさせて頂いており、ほぼ予定順に法話を頂いています。今後もこの協力のほどをよろしくお願い致します。

昨年度に計画をしていました「十勝組第十期門徒推進員養成連続研修会(連研)」は、現在のところ募集計画を中断しています。連研は、対象者の年齢制限が撤廃された状況の中、現代社会の軸となす戦後世代を中心とする方々に標準を合わせた目的で、本年度より新たな「連研ノーマルE」を使用して開催する予定です。そのためのお呼びをスタッフ全員で共有していく必要があります。

また、開催参加できない理由を探るために、組内全寺院宛に「連研についてのアンケート」の結果を送付しました。今後の十勝組において、各寺院の教化活動が仏教婦人会や総代

会の高齢化と各町村の過疎化・僻地化が迫る中、途絶えていく可能性が示唆されます。この事態に楔を打つものが、連研であり、門徒推進員の活躍です。連研の必要性を各寺院が十分に理解頂かない中で顕著になってきたのは、十勝組全体の教化活動

## 青少年キッズサンガ部

青少年キッズサンガ部部长

藤本 実円



第四十八回目を迎える教区少年指導者研修会が平成二十七年七月十三、十四日の両日、日高組乗警寺を会場とし「弱者の視点に立つということ」弱さの持つ力と可能性」と題して

の停滞です。各寺だけが生き残れはという判断は、結果的に各寺のあり方自体を狭めて行きかねません。来年度以降、連研に関わる研修部は部員も替わりますので、取り組み自体を再検討し、ご協力を頂く中で進めていく必要があります。

ご講師を北海道医療大学・ソーシャルワーカー・浦河べてる家・理事・向谷地生良先生をお招きし、全道各地から二十五名の参加者の内十勝からは六名の参加を頂きました。

何故人の心は病むのかという問題について以前は宗教学者や哲学者が研究していたが、現在は直ぐに薬や科学的なものに頼ってしまう。病気は体や生命が出すサイン・シグナルであり、体のバランスを取り戻すための営みです。近代化科学化の中でそういった事が疎かになり、皆が助け合う生活から外れて来てしまっている子どもは心は柔らかい。親のケンを力をもつて見せられていると、それに併せて心の形を作り変えてしまう。結果、心のバランスが崩れ極端な行動を起こすようになる。とご教授くださいました。

終了後、会場を優勝ビレッジに移動し懇親を深め、翌日は施設職員ガイドのもとジェイアールエイの施設見学をして解散となりました。十勝組の活動は平成二十七年十二



「あらゆるいのちは、はかなくも、  
かけがえのないものです。そのいの

## ビハラー十勝の 活動と参加のお願い

ビハラー十勝代表

高田 芳行

月二十日、午後一時より別院を会場として【サンロウからサンロウへ】く生まれ変わるロウソク・生まれ変わる私」と題して組内から三ヶ寺十六名の小学生参加のもと仏参・ゲーリ・オリジナルロウソクを二つ作成。灯りの夕べを開催して午後五時に閉会しました。参加者には楽しい時間を過ごして貰えたようです。

ちのかけがえのなさに目覚め、お互いが御同朋として思いやりあうところに、仏教徒の生きる姿勢がありま

す。『ビハラー活動の理念』より抜粋

私たちの宗派が、「ビハラー活動」を始めてから二十九年になりました。

ビハラー活動は、仏教徒が、仏教・医療・福祉のチームワークによって、支援を求めている人々を孤独の中に置き去りにしないように、その心の不安に寄り添い共感し合い、少しでもその苦悩を和らげようとする活動です。

ビハラー十勝では現在「特別養護老人ホーム帯広慈恵の里」において月に一回ビハラー活動を行っております。午後二時からエレベーター前の廊下で「集い」を行います。内容は仏参(重誓偈)・月のうた(懐かしい歌謡曲など)・法話・レクリエーション(歌に合わせて体操など)・ひとりじゃなかもん(ビハラーのテーマ曲)で約四十分。

その後二十分休憩し、午後三時より各ユニットを回り、施設利用者の方々のお話を聞かせてもらいます。

ビハラー活動の基本は傾聴です。傾聴は、ほほえみと寛容の心で進めます。相手の発言を利用者の目の高さでよく聞き、活動の中から私たち自身が生きる意味を学びます。月の活動の他に九月の感謝祭と一月の餅つきのお手伝いをしています。

昨年度の施設での活動者の参加人数は一回四・二五人でした。五月と六月は一味会の方が参加して下さり久しぶりに十人を超える賑やかな活動になりました。若い風を施設に届けてもらい利用者の方々喜んで下さいました。

## 平成二十七年 僧侶研修会(三役主催)について

三月三日、四日と十勝川温泉観月苑におきまして、二十名ほどの受講者の中、十勝組僧侶研修会が開催されました。

ご講師には千葉組長の行信教校時代の先輩であります、大阪教区光照寺住職の若林真人師をお招きし、「覚如上人著述の視点」と題して、二日間に渡りお話しをして頂きました。

覚如上人は一貫して親鸞聖人を世に知らしめ、その御廟所を本寺化(本願寺)することを目的とされた生涯であった。従って覚如上人がのこされた著述は、歴史的事実に忠実でありました。

ビハラー活動の理念はお寺の活動とも重なるものです。毎回参加できなくてもビハラー十勝の活動に一人でも多くの方に参加していただきたいと願っています。

どうかビハラー活動にあなたの風を届けて下さい。

## 平成二十七年 十勝組「お祝いの会」研修講師団を囲む会について

なかなか、覚如上人や「親鸞伝絵」について、学ぶ機会もありませんでしたので、大変有意義な研修会となりました。

今年度の十勝組「お祝いの会」並びに「研修講師団を囲む会」が十二月九日に十勝幕別温泉グランドヴィリオホテルにおいて、三十名を超える参加者のもとで開催されました。

真光寺 住職 桃井 浩純 師

東光寺 住職 豊田 信之 師

(僧籍五十年)

真徳寺 住職 松浪 浩之 師

(住職三十年)



豊田師

松浪師

桃井師

鷺岡師

照經寺住職 鷺岡 康照師  
(本堂落慶)

の四名でありました。

千葉組長よりお祝いのご挨拶の後、この度は、お一人お一人より謝辞をいただき、長年のご苦勞や思い出を語っていただきました。大変和やかに楽しい一時でありました。



# 四年間を振り返って

## 四年任期満了の はずが…



十勝組々長 照映 千葉 千

平成二十四年三月二日、選挙組会において推挙され、以来四年間三役を初め多くの皆様方に支えられながら遂行してまいりました。

この四年間、本山、教区、組、共に平成二十三年三月十一日に起こりました未曾有の大惨事、東日本大震災の復興支援という事を中心に活動を展開した四年でありました。

十勝組では震災直後の瓦礫の撤去、義援金を組内寺院へ依頼、軽ワゴン車の寄贈、一周忌法要へ参加協力、三回忌法要と炊き出し、十勝川温泉での温泉説法への招待、三陸花ホテルでの温泉保養への招待、支援物資の搬送並びに発送、仮設住宅でのお茶つこと傾聴、仮設住宅へのお菓子を発送、等々継続して支援活動を行ってまいりました。  
改めて多くの皆様方にご協力を賜りました事に篤くお礼申し上げます。

また、この四年間の任期中、「まさかこの私か」という思いの中で受けた役職でありましたが、そんな中、各種研修会と一緒に参加させて頂き、学ばせて頂いた事は本当に有難い縁であったと喜んでいる次第であります。

さて、次期組長はどなたが？と思っておりましたが二月十六日に開催しました組長選挙委員会におきまして、またも想定外の再任しなさいという話になり、先般の組長選挙組会において承認されたわけでありました。

平成二十八年四月から又、四年間大きな支えが必要な組長が任に当たる事となりました。

引き続きご協力賜りますようお願い申し上げます。合掌

## 四年間を振り返り



十勝組副組長 恒樹 泉

四年前の三月だったと思います。

現組長の千葉照映氏より、十勝組の会計を打診されたのは。直接来寺され、断るに断れないのを思い出しします。断るという事が苦手な私なのですが、その時は闘病中でありました。母も居り、何とかお手伝いをして思っていました。

しかしこの四年間で母は亡くなり、昨年結婚をし子どもが生まれました。環境がガラッと変わってしまった。今までのように自分の時間に余裕が無く、会計を担う事が難しくなった事もあり、一期四年間で解任していただきました。先抜けのような感じ、組長をはじめ再任された方々には大変申し訳なく思います。

後任には、同じ芽室の大船寺さん三浦敬信くんが受けて下さり、会計にとつて大事なマメさと真面目さを持つた最適な方なので、何も心配をしておりません。

振り返ると、十勝組の事、北海道教区や本山との関係など、分からなかった事が随分と知る事が出来ました。また、種々の役員会や研修会等に積極的に出席させていただきました。研鑽を深める事も出来た充実した四年間だったと思います。大変貴重な経験でした。役員をしたからこそであり、千葉組長には感謝の思いです。

しかし思う事は、十勝組は広大な土地である為に、全体がまとまる感じではありませんし、協力や関心を

持つて下さる方とそうでない方の差も大きく感じました。

どのような会でも同じだと思いますが、役員さん方は大変な思いをして活動を続けております。大変だ！という思いが先に出てくるようになっていたら、辞める事だだけを考えるようになります。そうならない為には、周りの深いご理解とご協力が不可欠です。

どうぞ、無関心でないで下さい。新年度になり役は降りましたが、この四年間の経験を私一人だけの経験とすることなく、十勝組全体の盛り上がりになるよう、出来る限りの参加協力をさせていただきますと思います。大変お世話になりました。四年間、有難うございました。

## 十勝組実践運動四年間の総括

〈重点プロジェクトを中心として〉



運動をすすめるための社会福祉委員会  
十勝組委員長  
高田 芳行

二〇一一年(平成二十三)年三月十一日に東日本大震災が起こり五年が経過しました。震災後直ぐに教区内の若手僧侶が現地に出発し、東北教区災害ボランティアセンターの立ち

上げに協力し、何が必要等の情報を発信し、被災地への本格的な支援活動が始まりました。平成二十三年度に十勝組からは、ボランティアセンターに軽ワゴン車を届け、復興ボランティアが入り汗を流しました。翌年二月に被災された仙台市専修寺住職・門信徒一行を教区青年僧侶主催「温泉説法の集い」に招待しました。

平成二十四度は岩手県大槌町の第八仮設住宅での三回忌法要と炊出し実施(ジーンズスカーフ・三平汁の提供)、平成二十五年度は復興した沿岸のホテルに大槌町第八仮設住宅の住民を招待し、交流忘年会の開催(胆振組と合同)。復興支援特別研修会「岩手県大槌町への派遣を終えて」の開催(講師 音更町職員山本智久氏)。二十六年度は福島県二本松市真行寺訪問(青空市場へ支援物資を届ける)、南相馬市勝縁寺仙台市専修寺を訪問、仙台市の仮設住宅でのお茶会の開催。福島県の家族の保養(教区事業)の受け入れと家族が利用するレンタカーの提供。

本年度は先ず、ネパールの甚大な震災に対してカトマンズ本願寺に組より三十万円義援金を送りました。支援金を年間を通じて各寺院、各団体をお願いをして、以下の活動を実施しました。

①災害支援特別研修会の開催。十月

二十二日帯広別院会場。講師は福島市の佐々木宗隆氏で福島市の除染の現状を中心とした研修。

②二本松市真行寺(青空市場)へ支援物資の送付(米、野菜、調味料、日用品など段ボール三十箱)。

③東北教区災害ボランティアセンターへお茶会用のお菓子を毎月送付。

④被災地の声を聞くツアーの開催。平成二十七年十二月に二泊三日の

日程で福島市復興支援事務務所いわき市光西寺、光善寺の仮寺務所、南相馬市勝縁寺を参拝しお話

## 総代会部

### この四年間を振り返って



部長  
信之  
部  
部長  
桃井

千葉照映組長のもと、この四年間、十勝組総代会部長として、微力ながら活動を続けてまいりました。またこの春、さらに四年間、任を全うするよう仰せつかりました。

四年前、部長を拝命したその年に、十勝組主管による「Cブロック門徒総代研修会」を開催いたしました。何を準備するにも初めてのことです戸惑いがちでしたが、松田正志会長

を同う。復興支援事務務所では夜の法座に参加し、夕食(豚汁・鮭汁)を提供する。普段は仮設住宅で生活をされている参拝者は「寄り集い法話を聞き、食事を共にし語り合うことがうれしい」、勝縁寺湯澤住職は「来てもらい、見てもらい、それを多くの人に伝えたい」と最後に話下さいました。

今後被災地の今を知り、組で相談しながら出来ることを考えて支援活動を実践していきましょう。

積極的な姿勢に加え、藤原副部長(前部長)・鷲岡副部長をはじめとする部員の皆さまの有効な助言・お力添えによって、成功裏に終えることができました。

「Cブロック門徒総代研修会」につきましては、来年度再び十勝組主管で開催の予定になっております。前回の経験を生かしながら、より充実した研修会になるよう努めていく所存です。

また、恒例の「十勝組総代会・壮年会合同一泊研修会」は、壮年会の皆さまと合同で会議、並びに懇親会を行うことでより親密な関係を築き、連携を深め、連絡を取り合いながら開催してきました。前年度の研修会では、日帰り参加の多いことが課題となりましたが、今後は「一泊」研



修会として開催してきた意義を周知していきたいと思っております。

総代会総会・研修会は、農繁期を避けて三月下旬の開催としたものの、思ったほど参加寺院も参加人数も増えていないという課題があります。総代会は、寺院の存在に関わる重要な組織としてすべての寺院にあるものです。総代の自覚をより強く持つていただく機会として、積極的に参加していただくよう促していきたいと思っております。

## 仏教婦人会

### 四年間の活動総括



見誓 部長  
婦人会 御幸

アナログ部長が、デジタル部員に支えられ、婦人会会員と各寺住職、坊主のご協力を頂きながらの四年でありました。

四年前、各単位に婦からの十勝相通協役員選出に關しての変更と、連協会長の役務の繁忙さ、又各種行事の準備に當つての連協役員の方々のご苦労等へのご意見等があり、それらの対応から始まりました。

部員、連協役員の皆様と共に会合

協議を重ねた結果、またご批判があらうかと思いますが現在の組織構成、行事運営に至っております。

今後の連協仏婦については、会員の高齢化への対応が大切になりますが、新会員の勧誘ととも現会員が、一年でも長く参加して頂ける様に各寺住職様、坊主様のご協力よろしくお願いいたします。

最後に、部員は若くて行動的でデジタル人間に限ります。随分助けて頂きましたので。 合掌

## 仏教壮年会部

### 現在・今後の課題

佐藤 誠  
仏教壮年会部部長

千葉組長体制の下、四年間の壮年会部の部長を、壮年会組連盟の会長をはじめ各役員の方と壮年会部部員の皆様のご協力により無事に勤めさせて頂きました。

その中で、参加いただいた各種研修会では和やかな雰囲気の中で実り多いものとなったのではないかと思います。また、参加いただいた方々がそれぞれの寺院活動の核となっていると強く感じるところであります。

しかしながら、各寺院共に仏社会員の高齢化が進んでいる現状が有り、また会員減少の傾向ともなつて

います。また、仏教壮年会を新しく立ち上げるにしても、中々簡単なことではなく、その手立てを考えていくことを、大きな課題として取り組む事を願います。

## 寺族婦人会

### 会長の二年を振り返って

寺族婦人会会長

頼田 豊子

年々坊守の仕事も多様化し忙しくなるばかりであります。新しい機会について行かれない世代と、どんどん新しい社会に進んで入っていく若坊守達など、現代におけるお寺の役割や取り巻く環境の変化も大きなものがあります。

お寺は葬式・法事の場合だけではなく、もつと昔のように沢山の人が(地域や町内会の行事にも開放)集い、子供達の笑い声がいとも聞こえてくる場所していかなければならないのではないのでしょうか。

ある時「寺の人間だからという垣根を取り払って地域社会にもつとも自分から進んで入っていくべきでしょう」とある人から言われ、はつとしたことがあります。

色々な人たちとの「ご縁」が一番大事なのだということ…言葉では良くわかつてはいるつもりでも行動が伴

わない自分がいた事に気づかされた二年間でした。

自分一人では何もできない時代です。坊守同士共通の悩みを語り合ったり、研修会に参加して他の寺院の活動ぶりに目を向け、勉強させて頂くことが大切なことだと思えます。もつと研修会に参加して信頼し合える仲間を沢山作って頂けるようにと思います。

## 研修部における

### 四年間の活動総括

研修部部長

脇谷 暁融

当部では毎年連続して「御同朋の社会をめざす運動(実践運動)」推進のための「十勝組僧侶研修会」を開催しました。ご講師には本山中樞の各担当でご活躍頂いた方々を迎え、基幹運動からの成果と課題をもとに、現在の「御同朋の社会をめざす運動」があることを一貫して講義頂いています。

また事業の「テレホン法話」の運営は、その年度頭初に各単位の部長から部員にかけての順番を一覧として配布、その後忘備のため一ヶ月前には、担当者へ直接案内ハガキにて通知しています。このことが成果を結び、順当な運営を行っています。

「連研」は、第九期が修了した後、第十期の開催を目前に募集をしましたが人数を満たさず中斷を余儀なくしています。今後新しい連研ノートの学びをもとに、話し合い法座の意義を確認する中で進める必要があります。

## 四年を振り返って



青少年キッズサンガ部  
藤本 実円



『キッズサンガ』はいつの間に『子ども・若者ご縁づくり』に変わったのか。浸透・推進成らないうまま別な事業を始めたのか、と問い合わせを頂くと、時代に無関心で置き去りにされている私自身を不憚に思います。

この事業が始まって十年。当時の小学生も今や成人となり悩み多き世間に生きづらさを抱え人生の問いをもち、キッズサンガの願いである阿弥陀様のご縁に子ども・若者そして大人も共に遭っていることとする教化活動を『ご縁づくり』とし、そのご縁を『つくり』『つなぎ』『深める』ことを活動のテーマとしていくものであり、別な事業の立ち上げではありません。このご縁づくりを推進するにあたり、常に活動推進の自己点検の目標に研修会を開催して来た四年間でしたが、誠に残念ながら「訳が分らない」と評価された事は力量不足で恥ずかしい思います。今後は新たな視点のご縁づくりをお願い致します。

## 千葉組長新体制

十勝組組長	千葉 照映	光心寺	桃井 信之
副組長	岩崎 直行	順惠寺	藤原 昇典
副組長	三浦 敬信	宝照寺	鈴木 克彦
実践運動副委員長	白石 秀	白石 妙法寺	6月16日 6月30日
総代会部部長	井田 智生	信光寺	7月1日 7月15日
副部長	井田 信生	光心寺	7月16日 7月31日
副部長	鈴木 典之	順惠寺	8月1日 8月15日
副部長	藤原 克彦	宝照寺	8月16日 8月31日
副部長	佐藤 誠	報徳寺	9月1日 9月15日
副部長	藤本 賢	報徳寺	9月16日 9月30日
副部長	加藤 照	照経寺	10月1日 10月15日
副部長	泉 恒樹	照経寺	10月16日 10月31日
青少年キッズサンガ部部長	皆川 隆信	太子寺	
副部長	上窪 洋	淨信寺	
副部長	佐藤 延子	報徳寺	
副部長	高平 陽	百合寺	
副部長	藤岡 香	新泉寺	
副部長	高平 彰	妙覚寺	
副部長	山宮 孝	誓願寺	
副部長	久林 仁	新泉寺	
副部長	久林 仁	新泉寺	
副部長	久林 仁	新泉寺	

## 訃報

顕勝寺第三坊坊守 芳滝 美和子 様  
平成二十七年十月三十日往生 行年六十一歳  
願惠寺第二坊坊守 藤原 藤子 様  
平成二十八年三月三十日往生 行年八十八歳

本年のご苦勞とご貢献に対し、厚くお礼申し上げますとともに、深く哀悼の意を表します。

2016(平成28)年度

## 十勝組・帯広別院テレホン法話 当番担当表

真淨寺	永田 弘彰	12月16日 12月31日
玄聖寺	上本 周作	12月1日 12月15日
宝照寺	泉 恒樹	11月1日 11月15日
法念寺	加藤 淳司	11月16日 11月30日
照経寺	鷲岡 康照	10月1日 10月15日
照経寺	鷲岡 佑	10月16日 10月31日
東光寺	豊田 信英	9月1日 9月15日
仏照寺	藤本 実円	9月16日 9月30日
玄聖寺	上本 周作	8月1日 8月15日
報徳寺	佐藤 誠	8月16日 8月31日
報徳寺	佐藤 信広	7月1日 7月15日
寿光寺	増山 直樹	7月16日 7月31日
宝照寺	鈴木 克彦	6月1日 6月15日
順惠寺	藤原 昇典	6月16日 6月30日
光心寺	桃井 信之	5月1日 5月15日
		5月16日 5月31日

☆宗門目標 御同期の社会をめざす運動（実践運動）  
☆総合テーマ 「そとつながる ホッがつたわる  
～結ぶ絆から、広がるご縁へ～」

テレホン法話 (0155)21-7777  
十勝組ホームページ <http://www.tokachiso.com>  
北海道教区ホームページ <http://www.hokkaidohongwanji.jp>  
〔1Dは寺院番号6ケタ、パスワードは教区時報第194号に各寺同封〕

## 編集後記

組だより三十三・三十四合併号をようやく発行致します。伝道広報部長・編集局である私の動きが悪く発行が遅くなりましたこと、お詫び申し上げます。一年間の各部の活動と、千葉組長体制の四年間を振り返ってということで編集致しました（どうぞ一読下さい）。次の体制となっています。「十勝組だより」を継続されて行くこととなっています。編集作業を進める上で、各部における研修など行事の写真が無く苦勞すること多くあります。ぜひ記録写真を残して下さいませようご協力お願いします。（伝道広報部部長 加藤淳司）